

★ 麦類 赤かび病 情報

降雨続きで、赤かび病の感染リスクが高まっています

麦類の赤かび病(写真1)に対する1回目の防除適期(赤かび病に感染するリスクが高い時期)は、二条大麦では葯殻の抽出期(写真2左、出穂期の14～16日後)、小麦では開花を始めた時期(出穂期の4～5日後)から開花期(写真2右)とされ、2回目の防除適期は1回目の1週間後とされています。

現在、二条大麦の「サチホゴールド」では既に防除適期を迎えており、小麦の「農林61号」も、まもなく防除適期を迎える予定です(出穂期は平年(4月26日、農林センター内ほ場)より早い見込み)。



写真1 赤かび病(矢印) 小麦



写真2 麦類の防除適期(1回目)

a:二条大麦の葯殻の抽出(矢印、左下:拡大写真)
b:小麦の開花(矢印)

それに加えて、4月は降雨が多く、赤かび病菌子のう胞子の形成、飛散(写真3)を促す気象条件(日最高気温が15℃以上、日最低気温が10℃以上で、湿度80%以上か降雨直後)が続いており(図1)、赤かび病に感染するリスクがさらに高くなっています。晴れ間を見計らって、適切な防除を実施してください。

防除上の注意事項

- (1) 出穂期、穂揃い期、開花期は品種、は種時期、ほ場の場所、栽培条件等で異なるため、出穂や開花状況をよく観察した上で防除適期を判断してください。

(2) ほ場の水はけが悪いと生育・出穂が不揃いとなり防除効果が低下しやすいので、排水対策はしっかりと実施しましょう。

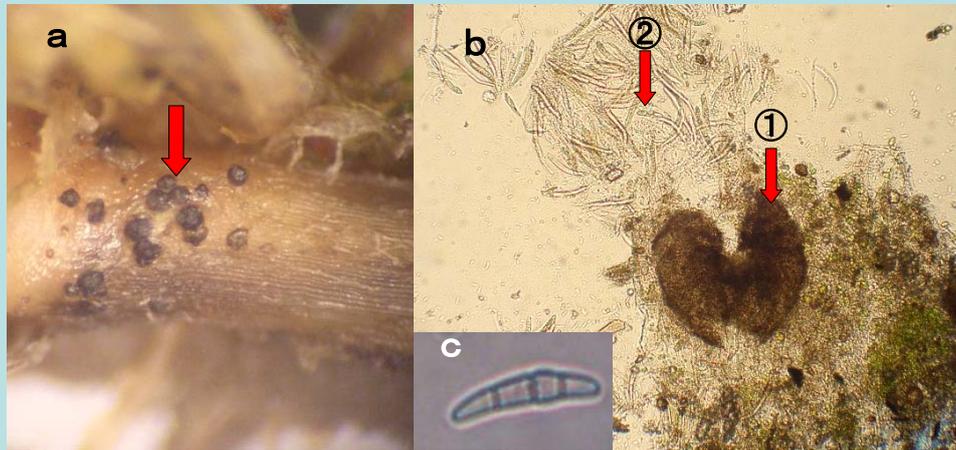


写真3 麦類赤かび病菌の子のう殻と子のう胞子

- a: イネ科植物の残渣上に形成された子のう殻(矢印)
- b: 子のう殻が破れ(矢印①)、噴出した子のうと子のう胞子(矢印②)
- c: 胞子採取器内のスライドグラス上に採取された子のう胞子

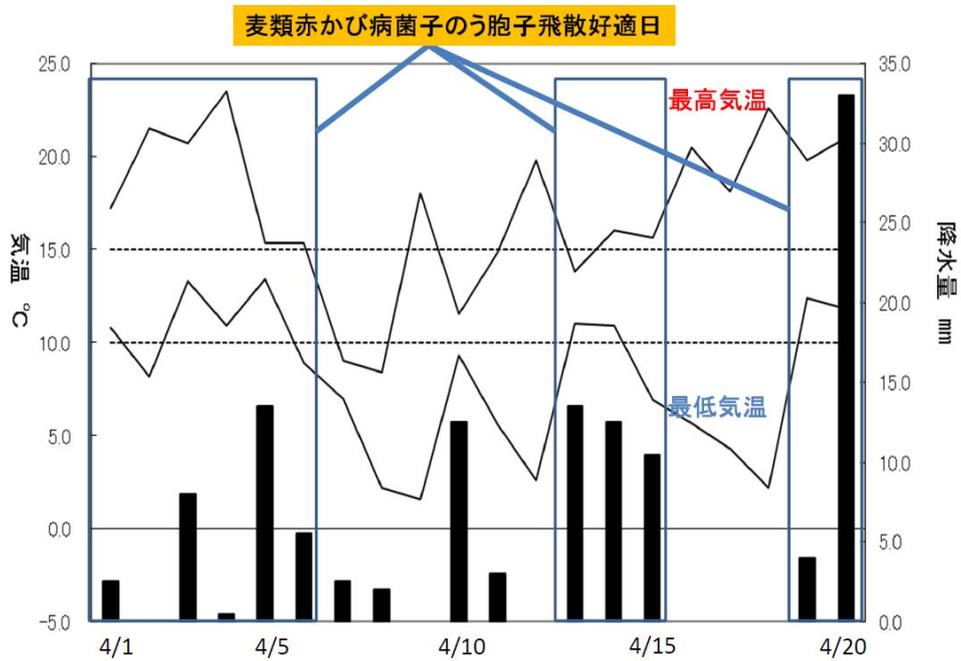


図1 4月の気温と降水量(亀岡、農林センター)